

平成 30 年度「NGO 研究会」
多様化する国際協力 NGO とソーシャルセクターの実態調査
別紙

2019 年 3 月

特定非営利活動法人 国際協力 NGO センター(JANIC)

1. 実施内容

①有識者による専門家会合での調査・報告書構成作成および報告書内容精査

2回の専門家会合を開催し、本調査の目的、対象の範囲、報告書構成の決定、調査対象となる組織のリスト作成、また報告書構成作成、内容確認を実施した。

●第1回専門家会合

・日時：2018年5月2日（水）11:00-12:10

・参加：伊藤健氏（慶応義塾大学政策・メディア研究科特任講師）、下澤嶽氏（静岡文化芸術大学文化政策学部国際文化学科教授：Skype）、中山雅之氏（国士館大学大学院グローバルアジア研究科准教授／Green Project 理事・事務局長／JANIC 理事）、JANIC 事務局：松尾沢子、楯晃次（JANIC 研究員）水澤恵、渡辺李依"

・議題：NGO 研究会企画意図、調査計画案の説明、調査における協力者への依頼事項など

・議論のポイント：本研究会において NGO は既存の概念を引き継ぐこと、またソーシャルビジネスを定義し、どういった組織を対象とするかを定めることを確認し、その実態を把握することを研究会の目的とした。ヒアリング候補リストアップの依頼。

●第2回専門家会合

・日時：2019年1月8日（火）14時00分-15時30分

・参加：伊藤健氏（慶応義塾大学政策・メディア研究科特任講師）、下澤嶽氏（静岡文化芸術大学文化政策学部国際文化学科教授：Skype）、中山雅之氏（国士館大学大学院グローバルアジア研究科准教授／Green Project 理事・事務局長／JANIC 理事）

JANIC 事務局：若林秀樹、松尾沢子、楯晃次（JANIC 研究員）水澤恵（Skype）、渡辺李依

・議題：報告書案第一稿について

・議論ポイント：以下の点を反映し、調査報告書第二稿を執筆することを確認した。

・調査背景、問題意識を定義し、何を得られる報告書なのかをより明確にする

・3章（新たな国際協力の担い手、当時）は、特にソーシャルビジネスの調査

で得た素材を活用し特徴を出し、新たに NGO とソーシャルビジネスを比較する章をつくることを再考

- ・最終章は、どういう課題解決のために存在しているのかを見ていくことを結論のひとつとすることを検討

第2回専門家会合の指摘を踏まえ、以下の方針および目的を決定し、第2稿執筆を実施

- ・方針：本研究会の調査目的を再整理し、それに沿ってタイトルや調査内容の分類記述と論じ方を再整理する

- ・調査目的：SDGs を受け多様な国際協力のアクターが存在し、役割担っている中、国際協力 NGO とソーシャルビジネスに注目し、それぞれの国際協力活動における役割を確認し、共通することと異なることを明らかにし、互いに補完しうるなどの連携の可能性を考える。

※企画書で言ってきた「枠組み」を、国際協力における「役割」と捉える。NGO が担ってきたコミュニティ開発や人道支援、提言などの役割領域でソーシャルビジネスが関われる可能性を考える。

※法人格の議論については、それぞれの役割を果たす手段との関連で考察する。

②日本の国際協力に関わる NGO の活動状況調査

国際協力 NGO ディレクトリーや NGO センサスを参考に、文献調査を実施、NGO の歴史を確認した。その上で、比較的広く認知されていることを条件とし、以下の団体にヒアリングを行った。

(公社)日本キリスト教海外医療協力会 (7/10) 、(公財)ジョイセフ (8/17) 、(公財)オイスカ (7/19) 、(特活)シャプラニール=市民による国際協力の会 (6/21) 、(特活)AAR Japan [難民を助ける会] (7/5) 、(特活)日本国際ボランティアセンター (7/27) 、(公社)シャンティ国際ボランティア会 (7/10) 、(公財)プラン・インターナショナル・ジャパン (7/17) 、(特活)ADRA Japan (8/20) 、(公社)ケア・インターナショナル ジャパン (9/4) 、(特活)ワールド・ビジョン・ジャパン (6/28) 、(特活)国境なき医師団日本 (7/13) 、(特活)ピースウィンズ・ジャパン (8/23) 、(特活)テラ・ルネッサンス (10/11) 、(特活)AMDA 社会開発機構 (8/24) 、(特活)パ

ルシック (6/19) 、(特活)クロスフィールズ (10/9)

※ () は、ヒアリング実施日



③国際協力分野でのソーシャルビジネスの活動状況調査

専門家からのインプットを踏まえ、Forbesの「新しいイノベーション!日本の担い手 99選」、日経ソーシャルビジネスコンテストの受賞社およびファイナリスト、JICAの中小企業・SDGsビジネス支援事業などの民間連携メニューの活用法人、有識者へのヒアリングを基に、途上国地域の課題解決を目指した事業を展開し、法人格をもつ非営利に限らず、また一方で企業によるいわゆるCSR活動は含まないことを条件とし、以下の組織にヒアリングを行った。

(有)ネパリ・バザーロ/(特活)ベルダレルネーヨ (8/24) 、(有)シサム工房 (8/22) 、(株)マザーハウス (8/23) (株)ボーダレス・ジャパン (8/6) 、(株)AfriScan (11/6) 、(特活)AfriMedico (11/8) 、(株)RICCI EVERYDAY (10/15) 、非公開団体 (7/25)

※ () はヒアリング実施日

④海外の国際協力 NGO ・ソーシャルビジネスの調査と日本との比較

海外の国際協力 NGO とソーシャルビジネスの調査では文献調査を行うと共に、米国と英国についてはヒアリング調査も実施した。米国については、2018年6月に出張して米国のネットワーク NGO の InterAction への団体訪問と関連イベントへの参加を通じて調査し、英国については、英国のネットワーク NGO である Bond にメールでの質問を行った。米国訪問の日程は下記の通

りであり、本調査の業務責任者総括の若林秀樹（JANIC 事務局長）が、門田瑠衣子（特定非営利活動法人エイズ孤児支援 NGO・PLAS 代表、当センター理事）、堀内葵（JANIC アドボカシー・コーディネーター）と共に出張した。



[米国出張日程]

日程	内容
2018年6月11日	米国到着
6月12日	InterAction Forum プレ・フォーラム・ワークショップへの参加
6月13日-14日	InterAction Forum 2018 への参加 (全体会、ブース展示、分科会、InterAction Award 発表会、USAID 長官の基調講演等)
6月15日	InterAction 団体訪問
6月17日	帰国

InterAction Forum は、米国のネットワーク NGO が毎年 1 回実施する大規模な国際協力に関する会議で、2018 年は国内外の NGO や政府、国際機関、企業、ソーシャルビジネス等の援助関係者を中心に、約 700 名が参加した。

InterAction Forum では、ソーシャルビジネスを含む米国の国際協力に関する多様なテーマの会議への参加を行い、米国の国際協力セクターに関する最新情報と課題について情報収集をした。InterAction の団体訪問では、InterAction CEO の Sam Worthington（サム・ワーシントン）氏、Vice President, Membership & Public Engagement の Carolyn Aerby（キャロライン・ア

ービー) 氏とのインタビューを行った。ヒアリングでは米国における NGO とソーシャルビジネスの関係および InterAction 会員制度について重点的に質問した。

⑤ ②～④の項目の報告書とりまとめと共有

上記の活動をもとに、報告書を取りまとめるとともに、以下の NGO 等関係者と共有を以下の行った。

●シナジー (JANIC 発行の NGO が今がわかる WEB マガジン)

アメリカの国際協力最前線－InterAction Forum 2018 参加レポート

公開：2018年8月31日 執筆：門田瑠衣子 (特定非営利活動法人エイズ孤児支援 NGO・

PLAS 代表、当センター理事)

<https://www.janic.org/synergy/2018/08/interactionforum2018>

●JANIC 会員向け説明会

日時：2019年1月18日(金) 10時30分-12時00分

場所：聖心グローバルプラザ 4-2 研修室

参加人数：28名

JANIC では「JANIC2030 年に向けた戦略方針 (S 戦略) 骨子」を踏まえ、2018年6月通常総会にて定款上の正会員要件の改定を行い、組織形態に基づく入会要件をなくした。その後、会員へのアンケートも含め、会員規程として定める具体的な正会員の入会要件やその審査基準について検討を重ねてきている。伝統的なアプローチとは異なる NGO やソーシャルビジネスという担い手について意見交換の場を開催した際に本研究会の調査活動から得られた内容をを一部共有した。

●第20回国際ボランティア学会

日時：2019年2月16日(土) 9時00分-17時00分

場所：横浜国立大学キャンパス 教育学部講義棟7号館

参加人数：150名／発表分科会は20名

詳細：<http://board.janic.org/janicboard/nucleus/index.php>

学会にて「多様化する国際協力 NGO とソーシャルセクターの調査」のテーマで報告を行った。

本報告目的は、②～④でまとめた内容、特に結論として提示した NGO とソーシャルビジネスの役割や活動領域について、アカデミックな視点から幅広く意見やコメントをいただくことである。

発表時間 12 分、質疑応答 3 分間で報告を行い、質疑応答では会場からいくつかコメントをいただいた。更に、発表後の休憩時間及び昼食懇親会では、追加の意見やコメントもいただいた。これら意見をもとに、報告書の追加執筆や修正をおこなった。具体的には、次のような意見やコメントが挙げられた。

- ・ソーシャルビジネスは、現場で活動を行う実務者やアカデミアの中でも注目され議論されてきた一方、その概念や使い方などが混沌としていた状況下で、結論で示された概念はとともわかりやすく、納得できるものであった。
- ・ソーシャルビジネスが注目を受ける中、一部の NGO もビジネス手法を取り入れ、ソーシャルビジネス側に寄って行っている現実があるが、それはどういった背景があると考えているか。またその状況をどのように受け止めているか。
- ・日本ではソーシャルビジネスと社会的企業（ソーシャルエンタープライズ）といった用語が使用されているが、その使い分けをどのように考えているか。



3. スケジュール

5月	第1回専門家会合開催 (2)
6月	米国の国際協力 NGO・ソーシャルビジネスの調査 (6/11-17) (特活)パルシックヒアリング調査 (6/19) (特活)シャプラニール=市民による国際協力の会ヒアリング調査 (6/21) (特活)ワールド・ビジョン・ジャパンヒアリング調査 (6/28)
7月	(特活)AAR Japan [難民を助ける会] ヒアリング調査 (7/5) (公社)日本キリスト教海外医療協力会、(公社)シャンティ国際ボランティア会ヒアリング調査 (7/10) (特活)国境なき医師団日本ヒアリング調査 (7/13) (公財)プラン・インターナショナル・ジャパンヒアリング調査 (7/17) (公財)オイスカヒアリング調査 (7/19) 非公開団体ヒアリング調査 (7/25) (特活)日本国際ボランティアセンターヒアリング調査 (7/27)
8月	(株)ボーダレス・ジャパンヒアリング調査 (8/6) (公財)ジョイセフヒアリング調査 (8/17) (特活)ADRA Japan ヒアリング調査 (8/20) (有)シサム工房ヒアリング調査 (8/22) (株)マザーハウス、(特活)ピースウィンズ・ジャパンヒアリング調査 (8/23) (特活)AMDA 社会開発機構、(有)ネパリ・バザーロ/(特活)ベルダレルネーヨヒアリング調査 (8/24) シナジー「アメリカの国際協力最前線—InterAction Forum 2018 参加レポート」掲載 (31)
9月	(公社)ケア・インターナショナル ジャパンヒアリング調査 (9/4)
10月	(特活)クロスフィールズヒアリング調査 (10/9) (特活)テラ・ルネッサンスヒアリング調査 (10/11) (株)RICCI EVERYDAY (10/15)
11月	(特活)AfriMedico ヒアリング調査 (11/8) (株)AfriScan (11/6)
1月	第2回専門家会合 (8) 英国の国際協力 NGO・ソーシャルビジネスヒアリング JANIC 会員向け説明会 (1/18)
2月	第20回国際ボランティア学会発表 (16)
3月	報告書完成

(以上)